

どろいあんぐる菅生

発行：菅生中学校区地域教育会議

編集：情報委員会

当番校：菅生小学校 TEL 977-0953

事務局：コミュニティサポートネット内

TEL 979-1303 FAX 979-1304

http://isweb43.infoseek.co.jp/school/sugao_ky/ E-mail: csn@ha.bekkoame.ne.jp

地域教育会議の学校訪問

生涯学習委員会では、子どもたちの学校生活を地域住民の目で見てみよう、学区内の小・中3校をそれぞれ2回ずつ参観することになりました。9月24日に菅生小、10月19日には菅生中、10月27日には稗原小をそれぞれ3・4時限目に参観しました。学校参観のレポートは来年の2月ごろにまとめる予定とのことです。

授業への子どもたちのリアクションは？

保護者として出かける授業参観とはまた別の視点でみることができ、新しい発見がありました。

今回、特に私たちが注目したのは、先生と児童・生徒が授業に向かう姿勢についてです。「担当する科目に深い知識をもち、専門的な技術で子どもたちに伝えているか。それを受けた子どもたちのリアクションはどうだったか」、そんな点を中心に観察してみると、教師が持ち合わせている資質に非常に開きがあるように感じます。子どもたちをひきつける授業をしている教師の共通点は、授業の内容が豊かで、教師自身がよく勉強しているように思います。そこには緊張感がたぐい、知性を感じました。こんなクラスなら、大人の自分もこの人に習ってみたいと思わせます。それに対して、内容が浅い教師の授業は、生徒に好かれようという教師の気持ちが子どもたちに伝わってしまい、子どもたちの授業への関心や意欲が薄くなってしまうという印象を持ちました。

学校は、学問を学ぶ場であるという視点をしっかりもって、第2弾の学校訪問を実施し、結果をまとめて報告をしたいと思います。

(生涯学習委員会委員長 上藤文比古)



「学校訪問」の打合せをする委員

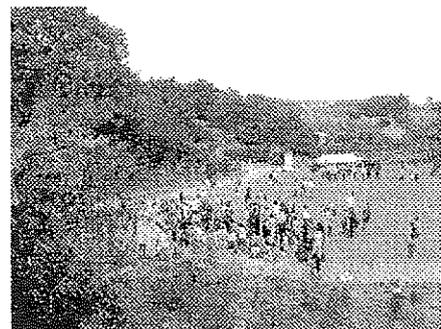
市民健康の森

「水沢の森」がオープン

菅生中学校区の南端、北部市場西方の水沢地区に宮前区市民健康の森「水沢の森」が誕生しました。「水沢の森」は里山の雑木林や草原・水辺を再生しようと、川崎市と市民団体「水沢森人(もりんど)の会」が協力して森づくりしている市民参加型の里山です。10月1日から一般公開され、市民が利用できるようになりました。

10月24日には、区長や菅生小・稗原小・菅生中の先生方と子どもたち、近隣の自治会長や多数の区民の皆さんが参加してオープニングを祝いました。オープニングセレモニーでは菅生中の吹奏楽部の生徒が演奏し、オープンを記念してドングリの種まきをしたり、森の散策をするなど参加者は自然の中での交流を楽しみながら、おだやかな秋の一日を過ごしました。

みなさんも、地域の新たな名所に一度足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。こんな自然が残されているなんて！ きっと懐かしくなったり、癒されることでしょう。



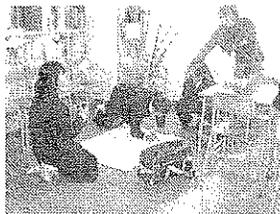
水沢の森でオープニングを祝う人々

里山に棲んでいる動物や植物を保護するために、「水沢の森では」次のことをお願いしています。

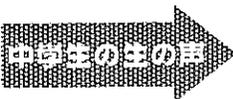
1. ペットは入れません。
2. 植物や昆虫などは採取できません。
3. 柵の中には入らないでください。
4. 自転車・バイクは入れません。
5. 野球・ゴルフなどは禁止です。
6. 許可なく火を使うことはできません。
7. ゴミは持ち帰りましょう。

※「水沢森人の会」(<http://216.jp/morind/>)では、森づくりに興味のある方の活動への協力を募っています。関心のある方はメールアドレス kirin2004@216.jp まで)

子どもの権利について 考えてみよう



10月23日(土)、菅生中学校では恒例の文化教室が行われ、今年も地域の講師による様々な講座が開かれた。「子どもの権利について考えよう」は講座の一つで、菅生中学校区地域教育会議の事務局長である生駒みさをさんが講師を務めた。参加者は1年生12名、2年生1名の計13名。昨年も受講した子や、小学校で「子どもの権利」について少し学んだけれど、もっと詳しく知りたいと思った子など、受講の動機も積極的。地域教育会議では、「子どもの権利」について子どもたちがまず知るところから始め、子どもたちが主体で運営する「子ども会議」をめざしたいと考えている。約2時間のクイズやワークショップなどを通して、子どもたちが考えたことの一部を紹介する。



①日ごろから感じている周囲への目

親に対して・大人に対して

- *「勉強しろ」ばかりうるさい。
- *ちゃんとやっているのに責めてくれない。できているときは認めてほしい。
- *すく、「子どものくせに」と言うけれど、大人だってタバコのポイ捨てや、バスの中でマナーを守っていない人はたくさんいる。
- * (大人は)年をとっているだけでえらいと思っている。
- *同じDNAをもっているのに、受け継いでいる部分とそうでない部分があるのをわかってほしい。
- *毎日「歯をみがきなさい!」といちいちうるさいと思うけど、一番に子どものことを考えてくれるのでありがたいと思う。

学校の先生に対して

- *子どもの意見を十分に聞いてくれない。
- *反発すると怒られる。違うのに・・・と思っても言わせてくれないのは大人が子どもの権利を破っていると思う。
- *ひいきしている先生がいる。意見を聞かない。マジありえない!
- *一人ひとりの意見を尊重してほしい。
- *勉強が多すぎる。
- *髪が肩についたくらいで校則だからと怒られる。邪魔にならないと思うけど。

取材を終えて

「子どもの権利」についての講座を取材して、中学生はみんなそれぞれ主張を持っており、親や大人、学校の先生に対していろいろな意見があることがわかった。そしてそれを多くの大人に聞いてほしいと思った。親や大人、学校の先生の中にも、子どもとどう接していいのかわからないのか、どう向き合っているのか悩んでいる人も多いと思う。自分の子どもが考えていることが理解できない親や、子どもの本心を知りたいと願う学校の先生もいると思う。また、このような7つの子どもの権利があることを知らない子どもも多いと思う。自分たち

の意見を主張する場があり、それを市政に生かすこと(「子ども会議」などをおして)ができるということをもっと多くの子どもたちに知ってほしいと思った。
地域教育会議では、まず大人が子どもたちの意見や考えを理解し、どんどん地域への要望を聞く機会をつくっていきたくて考えている。私たちが住みやすい街にするために子どもたちの主張をこれからも紹介していきたい。(H)

子どもが選ぶ「自分にとって最も大切だと思う権利 ベスト3」とその理由

世界では、1989年に国連で「子どもの権利条約」が定められた。川崎市でも、2001年に、多くの子どもやおとなの意見を取り入れ、「川崎市子どもの権利に関する条例(子どもの権利条例)」をつくりあげた。子どもが一人の人間として尊重され、自分らしく生きていくことを支える、市民と市民の約束である。

川崎市では、子どもの権利を大きく次の7つに分けている

1. 安心して生きる権利
2. ありのままの自分でいる権利
3. 自分を守り守られる権利
4. 自分を豊かにし、カブけられる権利
5. 自分で決める権利
6. 参加する権利
7. 個別の必要に応じて支援を受ける権利

1位 安心して生きる権利

- 今の世の中は簡単に子どもを殺したり悲惨な事件が多いので不安。
- 誘拐・窃盗・強盗など暗い道を一人で歩けない。
- いじめの問題。行きたくても学校にいけなくなるのがかわいそう。

2位 ありのままの自分でいる権利

- 国籍が違ったり、障害や病気、家庭の状況などの理由で差別を受けない世の中になってほしい。
- どんな子も自分らしく生き、その子にあった支援を受けられるようになりたい。差別を受けると、ありのままの自分でいられなくなるし、安心して生きることも出来なくなる。

3位 個別の必要に応じて支援を受ける権利

- 自分をだすことでいじめられたらどうしようという不安があり、友だちの前で変ってしまう自分がある。
- 一人ひとり個性が違うのだから、それを友達や親が理解してくれたら、もっと自分を大事にすることやありのままの自分をだせるように思う。



ミニバス

小学生のミニバスケット・子どもも大人もエネルギー沸騰

今、菅生地区の小学生の間でミニバスが盛んだ。ミニバスは、小さいボールを使い、ゴールも低くして小学生でもバスケットボールを楽しめるようにと考案された。

ある土曜日の午後、稗原小の体育館で練習中の「菅生ミニバスケットボールクラブ(通称:菅生マックス)」を訪問し、お話を伺った。

体育館にはキュッ・キュッというリズムミカルな靴音と、子どもたちの元気な声が響いている。体を動かし、根気強く声をかける監督やコーチの指導のせいも、子どもたちの動きも軽やかだ。

バスケットの面白さを知ってもらい、中学校でも活躍してもらいたいという願いからチームは発足した。当初はチラシなどで部員を募集、少しずつ参加者が増えた。菅生小と稗原小PTAの広報に、クラブの活動の様子や部員募集の記事を掲載してもらったり、母親たちの口コミのお陰もあって、現在は60人もの子どもたちが参加するチームになった。

「一人ひとり感謝のできるプレイヤーに、チームは礼儀正しく、まず、あいさつがきちんとできるようにしています」と監督の菅野茂さん。その言葉どおり、入り口には80人分の靴が整然と並んでいる。ミニバスの発起人の一人でもあり、チーム代表の増田圭子さんは、「自分も小さいころから地域や学校にスポーツを楽しむ環境があった。ぜひ子どもたちにそのような環境をつくってあげたい」と語る。

発足してわずか半年で6年生が公式試合に挑戦した。結果は負けたが、どの子も目を輝かせていた。応援した1・2年生にもいい刺激になった。コーチの一人が専門分野を生かして体かつくりメニューをつくってくれるなど、サポートのチームワークも整いつつある。

「ほかの小学校の子と仲良くなれて楽しい」「バスケのルールは知らなかったけど、教えてもらったので、試合のときやTVで観るときも面白くなった」「フンドリブル・フンフェイクやフリースローもできるようになったので、練習が待ちどしい」などと子どもたち。

保護者からは、「監督・コーチなどへの感謝でいっぱい!時々、高校生のボランティアも加わって8人ほどのスタッフが教えてくださる。親たちも練習の様子を見にきたりして、菅生小と稗原小の母親たちのつながりも広がった」という感謝の声や、「公式戦で1点を入れたときのみんなの喜びようはすごかった。試合に負けても心は負けていない。今度は勝つ喜びを味わわせてあげたい」と応援にも力がこもる声が。菅生マックスが1勝するのも近いかもしれない。(N)

どろいあんぐる菅生

発行：菅生中学校区地域教育会議

編集：情報委員会

当番校：菅生小学校 TEL 977-0953

事務局：コミュニティサポートネット内

TEL 979-1303 FAX 979-1304

http://isweb43.infoseek.co.jp/school/sugao_ky/ E-mail: csn@ha.bekkoame.ne.jp

地域教育会議の学校訪問

生涯学習委員会では、子どもたちの学校生活を地域住民の目で見てみようと、学区内の小・中3校をそれぞれ2回ずつ参観することになりました。9月24日に菅生小、10月19日には菅生中、10月27日には稗原小をそれぞれ3・4時限目に参観しました。学校参観のレポートは来年の2月ごろにまとめる予定とのことです。

授業への子どもたちのリアクションは？

保護者として出かける授業参観とはまた別の視点でみることができ、新しい発見がありました。

今回、特に私たちが注目したのは、先生と児童・生徒が授業に向かう姿勢についてです。「担当する科目に深い知識をもち、専門的な技術で子どもたちに伝えているか。それを受けた子どもたちのリアクションはどうだったか」、そんな点を中心に観察してみると、教師が持ち合わせている資質に非常に開きがあるように感じます。子どもたちをひきつける授業をしている教師の共通点は、授業の内容が豊かで、教師自身がよく勉強しているように思います。そこには緊張感がたどよい、知性を感じました。こんなクラスなら、大人の自分もこの人に習ってみたいと思わせます。それに対して、内容が浅い教師の授業は、生徒に好かれようという教師の気持ち子どもたちに伝わってしまい、子どもたちの授業への関心や意欲が湧かなくなってしまうという印象を持ちました。

学校は、学問を学ぶ場であるという視点をしっかりもって、第2弾の学校訪問を実施し、結果をまとめて報告をしたいと思います。

(生涯学習委員会委員長 工藤文比古)



「学校訪問」の打合せをする委員

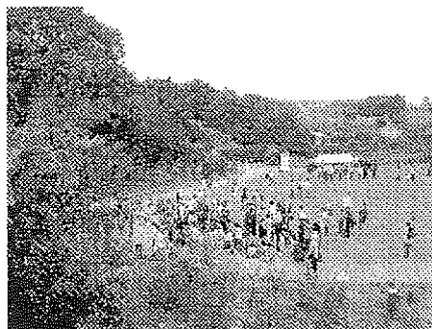
市民健康の森

「水沢の森」がオープン

菅生中学校区の南端、北部市場西方の水沢地区に宮前区市民健康の森「水沢の森」が誕生しました。「水沢の森」は里山の雑木林や草原・水辺を再生しようと、川崎市と市民団体「水沢森人(もりんど)の会」が協力して森づくりしている市民参加型の里山です。10月1日から一般公開され、市民が利用できるようになりました。

10月24日には、区長や菅生小・稗原小・菅生中の先生方と子どもたち、近隣の自治会長や多数の区民の皆さんが参加してオープニングを祝いました。オープニングセレモニーでは菅生中の吹奏楽部の生徒が演奏し、オープンを記念してドングリの種まきをしたり、森の散策をするなど参加者は自然の中での交流を楽しみながら、おだやかな秋の一日を過ごしました。

みなさんも、地域の新たな名所に一度足を踏み入れてみてはいかがでしょうか。こんな自然が残されているなんて！ きっと懐かしくなったり、癒されることでしょう。



水沢の森でオープニングを祝う人々

里山に棲んでいる動物や植物を保護するために、「水沢の森では」次のことをお願いしています。

1. ペットは入れません。
2. 植物や昆虫などは採取できません。
3. 柵の中には入らないでください。
4. 自転車・バイクは入れません。
5. 野球・ゴルフなどは禁止です。
6. 許可なく火を使うことはできません。
7. ゴミは持ち帰りましょう。

※「水沢森人の会」(<http://216.jp/morind/>)では、森づくりに興味のある方の活動への協力を募っています。関心のある方はメールアドレス kirin2004@216.jp まで)